



令和4年3月4日（金）

## 第3回内定者研修を実施しました

社会福祉法人大田幸陽会では、令和4年度新卒採用内定者を対象に研修を実施しました。主な目的は、職員と内定者、内定者同士のつながりを作ることです。加えて、就業前の不安感を減らし安心して入職してもらうこと、障害者福祉に関する理解を深め、職業倫理を養うための導入研修とすること、を掲げています。

第1、2回の開催を経て、3月4日に第3回内定者研修（最終回）を実施しました。参加者は5名、その内の1名はリモート参加となりました。

14:03 勢古常務理事の講話

14:30 『はじめて働くあなたへ』第4～6章 読後の意見交換

14:45 研修動画視聴&グループワーク

『障がい者支援の基礎～知的障がい者とは～』

15:20 研修動画視聴&グループワーク

『利用者と接する時のマナー』

16:30 【ワーク】 1対1で相手の話を聴く



はじめに、勢古常務理事より大田区の魅力や地域性について、具体的数字も交えたお話を伺いました。その後、大田幸陽会が掲げる「第5次経営改革プラン」について詳しい説明を受けました。当法人が大田区に根ざした地域密着法人であることや大田区の施策である「おおた障がい施策推進プラン」について、また当法人が地域共生社会の実現に向けて一翼を担っていくことなどを学ぶことができました。

勢古常務の「引いてものを見ることの大切さ」というお話について内定者からは、「広い視野を持つこと、視点を変えることの大切さについて大きな気付きを得た」という感想がありました。



次に、事前に課題を出していた『はじめて働くあなたへ』という冊子の第4～6章について、意見交換を行いました。特に障がい者のライフサイクルに関する事柄について多くの意見が交わされました。第1、2回に比べると、発言することに積極性が出てきたように感じます。

その後、研修動画として『障がい者支援の基礎～知的障がい者とは～』を視聴しました。ある内定者は、「障害者福祉に関する知識があまり無かったのですが、内定者研修を通して知識・考えを身につけることができました」といった感想を寄せてくれました。



続いて、『利用者と接する時のマナー』に関する動画を視聴し、接遇マナーの10か条を学びました。視聴後は、内定者同士の1対1で相手の話を聞く実践を行いました。ただ単に聞くのではなく、“受容や共感、相手を尊重する態度・姿勢”を意識しながら“聴く”、というワークです。内定者に対して事前に行ったアンケート（おすすめの映画や本、ストレス発散法など）を題材にしたためか、話題が途切れず、時間が思ったよりも早く経過したようです。マスクをつけてながらも、笑顔心を心がけながら取り組んでいる様子が見られました。



研修を通じて、内定者同士の距離がずいぶん近くなってきたように感じます。入職前の不安が軽減され、入職の日を楽しみに待つような心境になってくれたことを願っています。（内定者研修担当）